

平成 28 年度第 4 回佐倉市行政評価懇話会 要録

日時	平成 28 年 11 月 19 日（土）9 時 30 分～12 時 15 分	場所	社会福祉センター3階会議室
出席者	懇話会委員：宇田川委員、小野委員、坂口委員、林委員、武藤委員（委員長）、目等委員（副委員長）、吉村委員（五十音順）		
	事務局	山辺企画政策部長、向後企画政策課長、和田副主幹、上野副主幹、緑川副主幹、藤崎主査、池田主任主事、上田主査補	
	施策担当課	（自治人権推進課）鴨志田副主幹、坂主任主事 （生涯スポーツ課）猪股主査補 （健康増進課）細井主幹、池澤副主幹、原副主幹、内澤主査	
	その他	市民ワークショップ参加者 18 名、傍聴 0 名	
内 容			
<p>（事務局）本日は第 4 回佐倉市行政評価懇話会、第 2 回市民ワークショップへの参加をいただき感謝する。今回もはじめは事務局が進行役を務めさせていただく。</p> <p>前回 10 月 30 日開催の市民ワークショップでは積極的な発言や発表をいただけた。本日も引き続き宜しくお願いしたい。始めに佐倉市企画政策部長と佐倉市行政評価懇話会委員長から挨拶申し上げる。</p> <p>（企画政策部長）前回に引き続き、総合計画のワークショップでも大変お世話になった皆様にお声がけし、協力を頂くことができ感謝する。本日の話し合いも有意義なものとなるようお願いしたい。</p> <p>（武藤委員長）今年度は市民参加者の方に直接の意見をいただくワークショップという新しい手法を取り入れたいと皆様に協力をいただいている。本日の会議は、前回の議論で出された課題に対し、どう取り組んでいけばよいかの視点で意見をいただきたい。</p> <p>なお、前回アンケートの中で、班の中での行政評価懇話会委員の立場が不明確との意見をいただいたが、ワークショップの主役は参加者の皆さんと考えており、皆さんの議論を遮ることのないように、オブザーバーとして見守らせていただいているところである。</p> <p>委員の役割としては、最終的に皆さんからの意見をまとめて、行政評価懇話会の中で意見書に取り込みたいと考えているため、前回に引き続きよろしくお願いしたい。</p> <p><b>【佐倉市行政評価懇話会委員及び市職員自己紹介】</b></p> <p>（事務局）では、本日の流れの説明に先立ち、前回も説明したが、振り返りのため今回の市民ワークショップの主旨について説明する。</p> <p>佐倉市では行政サービスや行政事務がしっかりと推進されるよう、目標を立てて、実績を記録し、進み具合を評価し、次年度以降のやり方を見直すという、プラン・ドゥ・チェック・アクションという手続きの流れ（PDCA サイクル）があり、行政評価の仕組みとしている。</p> <p>基本的には行政評価は自らで行うものであるが、PDCA サイクルを効果的に実施するため、外部の視点で意見をいただく機能として、佐倉市行政評価懇話会を設置している。</p> <p>今回、この佐倉市行政評価懇話会で、市民の方々からも直接意見をお伺いしたいと皆様に参加を呼びかけることとなった。</p> <p>市では幅広く多くの業務を行っており、推進すべき大きな目標だけで 57 本ある。その中から行政評価懇話会にて「より市民の方の意見をいただきたい分野」や「意見を生かせるテーマ」という視点でテーマを検討し、①「健康づくりが進んだまち佐倉」②「地域コミュニティが元気なまち佐倉」の 2 本のテーマに絞込み、意見をいただくこととなった。</p> <p>前回、A 班・B 班は「健康づくりが進んだまち」について、C 班・D 班は「地域コミュニティが元気なまち」について、を中心に話し合っていた。</p> <p>本日は、その続きということで、同じ班メンバーで同じテーマについて話し合ってください。</p> <p>前回、テーマごとに、佐倉市のよいところ、課題、現状はこうだ、こうしたらよいかもといった事</p>			

を意見し合っていたいただいたので、本日はその課題や強みについて解決策やアイデアを出していただききたい。

本日のワークショップの進め方については、まず役割分担を決めていただく。進行役1名、タイムキーパー1名、書記1名、発表2名でお願いしたい。前回と同じでも、変更してもかまわない。

前回同様、市の職員が班全体の記録係として1名、行政評価懇話会委員がオブザーバーとして1名か2名入るが、話し合い自体は市民の皆さん主導でお願いしたい。

最初にカードを記入していただきたい。今回は「健康づくりが進んだまち」「地域コミュニティが元気なまち」、このテーマについて、前回に出した弱いところやもっと頑張れるところといった「課題」やこの取組はいい、ずっとやってほしい、市民も頑張っているといった「良い面」などなどを踏まえて、ではこれからどうして行ったらもっと「みんなが健康なまちにどうしたらなるか」「地域コミュニティが元気になるにはどうしたらよいか」の具体策「今後やっていくべきこと」や「皆でやってみたい」、「ひとりひとりもこんなことが出来るのでは」をそれぞれで考えて、思いついたことを付箋に1枚につき1つのことを記入いただきたい。カードはたくさんあるので、小さなことでも大きな夢でもかまわず、思いつくままどんどんたくさん記入いただきたい。

次にカード並べである。1人ずつ書いたカードを説明しながら、模造紙に貼っていただく。同じカードを作った人がいたら、「私も同じ」ということで、最初に貼った人の近くに貼って、グループ分けをしていただきたい。まずはカードを全員が並べきっていただき、その後、いろいろな広がる議論をしていただきたい。例えば良い提案があった場合、現実に実行していくには色々工夫が必要であるが、どうしたらよいかなどを深めていったり、良い企画提案の具体的な内容を考えたりと、話し合いの過程も楽しんでいただけたらと考えている。進行役の方は1人があまり長く話しすぎているときや、ずっと話をしていない人がいたら、声掛けしていただきたい。

最後に成果のとりまとめとして、発表の準備のために話し合ったことを、なるべく字にして仕上げていただきたい。カードを足したり、模造紙に直接、色マジックで大見出しをつけたり、関連性を矢印でつないだり、自由に表現していただきたい。各班の発表時間は8分として、本日出た班の意見の概要やみんなの一押しといった重要な点、ポイントを説明いただくようお願いしたい。

皆さんから頂いた意見については、行政評価懇話会が市に提出する意見書に反映されていくので、宜しくをお願いしたい。

続いて、事前にお送りした資料をもとに、前回の振り返りをさせていただきたい。

それでは、前回の市民ワークショップの振り返りとして、A～D班の発表や話し合いの概要を説明する。前回の市民ワークショップは、皆様で熱心かつ楽しく話し合っていたいただいた。これから、前回と同様にワークショップを行っていただくが、最初に前回の振り返りを皆さん一緒にしていきたい。

では、事前にお送りした【資料1】「第1回市民ワークショップの全意見」について説明したい。この資料は皆さんに出していただいた意見を、まとめた10ページのものである。最初に「健康づくり」担当のA班とB班から説明する。

2頁、まずはA班「健康づくり広め隊」の概要について説明する。

課題点としては、いろいろな情報が発信されていないということで、情報発信の徹底、より身近な場所でのイベント開催という議論があった。

また、高齢者は人と会うことが刺激となり健康に結びつくという意見、イベントなどの開催は地域区単位として、地域のつながりを深めることにもつなげるべきだという意見、開催場所の分散化、ターゲットは絞って方法を検討すべきだといった意見があった。

たくさん実施されている運動大会や、医療機関との連携は佐倉市の良いところなので、それを活用する方法など、前回の話し合いを踏まえて具体策を考えていただければと期待している。

4頁、次にB班「健康づくりが進んだまち 佐倉」の概要について説明する。

課題として、がん検診の受診率が低いこと、市の実施する健康づくりのための取組自体認知されていない、スポーツで本当に健康になるのか、スポーツをする時間と費用をつくりだせるのかといった意見があった。

良いところとして、市の取組は良く進めている、地域コミュニティも活発である。ウォーキングや自主的なラジオ体操などをやっている人たちがいるので、これを生かせないか。病院の数は多いなどといった意見があった。

その他として、医療費の抑制とメリット、公園へ健康促進機具の設置、スポーツ・運動が苦手な人もやる気になるような環境づくり、「健康」の定義、道路環境、食との関係、地域まちづくり協議会への期待などの意見があった。

発表の中では「スポーツと健康については、スポーツを行うと本当に健康になるのかが伝わってこないとの意見もあって、もっとメリットデメリットの周知が必要」「健康でもスポーツは出来ていない人や足腰が弱い参加できない人などをどのようにスポーツとつなげていくか」、また個人単位の健康は本人の自覚の部分も重要とのことであった。

これらを踏まえて、いろんな人の生活が身体を動かすことでより楽しく健康になる方法や、個人の自覚はどうしたら深まるかなど、課題解決、また良いところを生かす方法を検討していただければと期待している。

A班B班におかれては、施策担当課が課題としている若者の健康意識やスポーツへの参加意識をどうしたら高めることが出来るかについても、議論可能であればお願いしたい。

次に「地域コミュニティ」のC班、D班について説明する。

6頁、C班「元気な地域コミュニティのために」の概要について説明する。

良いところとしては、公民館祭りなどの事業に多くの参加がある、町内会館が多い、ボランティアの防犯パトロールが盛ん。課題としては自治会が面倒、役員をやりたい人、やりたくない人がいる。高齢者の買い物難民、交通手段の必要性、NPOなどへの参加の仕方が分からない、地域まちづくり協議会の活動がわかりづらいなど。高齢者を活用すべき、空き家の増加、地域に入っていくづらい、消防団に若い世代が入らない、道の駅がない、男性のボランティア参加が少ない、食育が重要など。また啓発活動は自治会や学校を単位でやってほしいといった意見があった。

具体策として、道の駅やふまねっと運動、自治会館の活用、集会所の建て替えを機会としてまちの将来像や住み良いコミュニティのあり方の話し合いの場をつくってはどうか。子ども消防団や子ども中心のボランティアがあれば若い世代も参加するのでは、といった提案などもすでにあがっているが、たくさん出た課題や良い点を踏まえて、今日は「地域コミュニティが元気になるためには何をしたらよいか」という手段を検討していただきたい。

自治会に入るものという時代から、自治会の必要性の理解や自治会費の使い道への理解促進など成果指標の自治会加入率が増加するにはどうしたらよいかなども意見をいただきたいと期待しているところである。

9頁、次にD班「地域コミュニティが元気なまち佐倉」の概要について説明する。

良いところは自治会活動の意識が高い、子ども達が声を掛けてくれる、ラジオ体操している、小学校区を拠点としている取組が良い、まちづくり協議会の活動が活発、道路や駅前公園など清掃活動、また花が植えられている市職員対応も良い、といった意見があった。

課題としては、まちづくり協議会の活動がまだ知られていない、地域での運動サークルづくりの取組がない、地域活動にまとまりがない、自治会未加入者の問題、空き家、若い人の参加、高齢化、活動団体の連携不足、まち協とサポセンの連携不足、地域資源を生かした活動ができると良いなど。

佐倉市は自治意識が高く、「なお一層市民サイドのまちづくりを」という結論であったが、引き続き、課題の解決、良さを生かした取組について、解決策を練っていただければと期待している。

本日も「全員が楽しく豊かに」の時間を共有したいと考えている。

たくさん手段を出すことや、あの手やこの手の手段など、皆で絞り込んで、この事業を本気でみんな具体化しようという話し合いをしてもよいのではないかと考えている。

本日は、市民がやることやれることを赤の付箋で、行政がやるべきことを青の付箋で一緒にやることは黄色の付箋で記入をお願いしたい。前回の振り返りは以上である。

それではワークショップの準備に移りたい。  
最初は前回同様自己紹介を行い、終わり次第、本日の役割分担を決めていただきたい。  
進行役1名、タイムキーパー1名、書記1名、発表2名でお願いしたい。  
前回と一緒にでも変更してもよいので、決まった班から進行役が進行を進めていただきたい。  
本日は前回の話し合いを踏まえて、「どうしたらよくなるか」の提案、アイデアをおもいつくままたくさん書いていただきたい。1枚について1つのことを大きく書いていただきたい。  
基本的には行政にやってほしいことは青、市民でやること・やれることは赤、どちらでもないものと一緒に頑張ることは黄色の付箋での記入をお願いしたい。  
では、各班で調整して休憩していただきたいながら、始めていただきたい。

#### 【各班でカード記入】

それでは各班で一人ずつ自分が書いたカードを説明しながら模造紙に貼っていただきたい。

#### 【各班でカードの読み上げとカード貼り】

ここからは発表の準備である。本日班で議論したことを整理して、皆に説明しやすいように、模造紙を仕上げてください。タイトルを上、班名を右上、班員の名前を右下に書いていただくようお願いしたい。15分後に発表を始めたいのでよろしくお願いします。

#### 【各班で発表用模造紙の作成と発表の準備】

(事務局) 本日の発表はD班からお願いしたい。発表時間は8分としたい。

#### ◆各班発表

##### D班 **カードに記入された主な意見**

###### 【サポートセンターの広報活動】

- ◇ 様々な市民活動を紹介するべき
- ◇ ワークショップの実施を
- ◇ 各団体にメーリングリストを随時発信
- ◇ 地域毎のさまざまな行事を行っているがなかなか市民全体に伝わっていない
- ◇ 指導者育成をさらに充実!

###### 【まち協活動】

- ◇ 市の取組を市民サイドに周知していくシステムの再構築
- ◇ 地域協議会のよさが市民に伝わっていない
- ◇ 自治会への参加者一覧を作成してほしい(地域別)

###### 【個別課題】

- ◇ 空き家がどれだけあるのか不明だけど、何かに利用できないものだろうか
- ◇ 高齢者向けの施設の改良。トイレをすべて洋式化

###### 【異世代交流の場づくりを!】

- ◇ 子どもも参加するパトロール
- ◇ 防災パトロールへ参加しない(少ない)
- ◇ 情報の提供地域でのPR。各地の行事予定公表
- ◇ 子どもステーションの例あり
- ◇ 地域毎の特性を生かしたイベントの立ち上げ(異世代交流をベースに)

- ◇ 地域毎の様々な団体を連携させていくシステムの構築
- ◇ 市、まちづくり協議会、市民の三者が連携できる場づくりを

**【たとえば】**

- ◇ 春は学校、秋は地域（運動会）
- ◇ 日々の暮らしの中で健康づくりを！（簡単に日常生活を送りながら出来る運動などの細かい活動を自治会で行ってみてはどうか。）
- ◇ 地域間の交流もできるように
- ◇ 一戸建てとマンションとでは自治会への参加 コミュニケーションが取りにくいのではないかな。

**【市民と行政】**

- ◇ 情報の提供 市民から行政へ 行政から市民へ “市民と行政の双方向性の情報共有”

D班発表テーマ

**地域コミュニティが元気なまち！」→ 縦割り 連携こそ命！！**

（D班）各テーマにおいて、どの部分が個人で行えるか、市役所が行えるか、市民と市役所で一緒に行えることができるかの視点から議論した。

各テーマを紹介していくと、「サポートセンターの広報活動」については、地域毎に様々な行事が行われていても、なかなか市民全体に伝わっていかないという課題があるのではとの意見があった。「まちづくり協議会の活動」についてもまちづくり協議会や自治会の活動・良さについて、もっと広報して欲しいとの意見や、市の取組をわかりやすく市民に周知していくシステムの再構築が課題であるとの意見があった。「個別課題」としては、高齢者向けの洋式トイレが少ないため全てのトイレの洋式化をできないか。空き家がどれだけあるのか不明であるが、活用されていないように思われており、何かに利用できないものかということから、一戸建て空き家の活用方法を検討したらどうかとの意見があった。また、個人的には佐倉市が好きで佐倉から出たい人は少ないと考えているため、佐倉市への好感度を調べ、情報発信をいただくことで好感度を共有できれば良いと考えた。続いて、「異世代交流の場づくり」については、地域ごとに異世代の交流ができるようなイベントの実施や自治会、長寿会、子ども会など単位毎の活動を連携するシステムの構築を行政にお願いできないかという意見があった。一方、市民側では、個人単位での防災パトロールへの参加活動など、異世代交流の場づくりを行えるものがあるのではないかとこの意見となった。

市民と行政で一緒に行うべきこととして整理したのは、行政と市民の相互では情報交流が欠落しているため、行政にも市民にも縦割りではない双方向性での情報交流・連携が必要ではないかとの意見となった。

C班

**カードに記入された主な意見**

**【コミュニティバス】**

- 〈市民がやること〉コミュニティバスの活用←→運転免許返納
- 〈行政がやること〉巡回バス、巡回タクシー 病院+買物

**【市民の参加】**

- 〈市民がやること〉ボランティアへの参加
- 〈行政がやること〉趣味の会が多いのでその活用  
自主的に出られるような運動、レクリエーション 市民の参加への足の便を検討
- 〈一緒にやること〉高齢者の有効活用  
市民カレッジの活動が素晴らしい 市民の参加にはアメとムチ

**【公園の活用】**

- 〈市民がやること〉ラジオ体操との連携 公園での集りの企画
- 〈行政がやること〉公園への健康器具の設置

**【その他】**

- 〈市民がやること〉財源は介護、健保の削減
- 〈一緒にやること〉道の駅（お願い）雇用の創出

C班発表テーマ **元気な地域コミュニティのために**

(C班) C班は、地域コミュニティにおける現状や、どのような希望があるかに絞って各テーマを議論した。

「コミュニティバス」では、高齢化が進むと免許返納となるため、今後更に需要が増えてくるのではないかと考えた。市としては赤字が見込まれるものの何とか頑張って事業化してほしい。また、今後、買い物難民が増えてくるための対策として、移動販売車や循環タクシーはどうか。

もう一つのテーマとして、「市民の参加できる行政」を議論した。

佐倉市には市民カレッジもあり地域のコミュニティに元気な高齢者が多いので、市として活用できる方法がどこかにあるのではないかと考えた。参考事例として、東京では75歳以上という条件かつ年会費1万円を支払うようなボランティア活動があるが、定員満員のため入れないような活動もあるとの意見もあった。社会活動の場には、男性の参加が少ない傾向があるが、参加特典としてスパ施設の割引券や映画館の割引などがあれば、もっと社会活動への参加促進になるのではないかと考えた。「公園の活用」では、各町会で1つ2つ公園があるということは佐倉の素晴らしいところであるが、ほとんど有効活用がされていないので、高齢者のために健康器具を1つでも置いてもらえるとありがたい。「その他」では、道の駅設置について提案が出た。佐倉市には田畑が多いため、農産物を売ることによって雇用が生まれ良質で安価な野菜が流通されるとともに、新たな交流も生まれるのではないかと考えた。参考事例として、北海道にはたくさんの道の駅があるが、同じような道の駅でも来客者が集まるところとそうでない駅がある。駐車場を広くしたり、飲食店を充実させたり、工夫一つで集客力が変わるので、そのような事例を参考にして工夫して設置いただきたい。

今まで述べた施策については、財源が必要なため財源をどのように確保するかだが、毎年、佐倉市は健康保険料など増額していると聞いており、これらは更に減らすことができると考えている。例えば、介護保険についても、軽度の方が不要な家事援助を利用しているケースが多いのではないかと考えた。これらの中で不要なものは抑えて、本当に必要な政策に充てていくことで実現をしてほしい。

B班 **カードに記入された主な意見**

【行政が行えること】

- ◇ 行政の職員と共に議員も頑張らないといけない
- ◇ あれもこれもやるといっても予算が必要となる
- ◇ スポーツ⇒気持ちよくなるがそれ以外の手段もある
- ◇ 公園、歩道等の整備

行政の力を借りる

【市民が行えること】

- ◇ スポーツをできない人をどうするか
- ◇ 自分に合ったコミュニティを探す

参加出来ない人

【一緒に行えること】

- ◇ 万歩計などを活用して、ポイント制を導入したらどうか
- ◇ 商工会等と連携してポイントで商品交換してはどうか
- ◇ 健康づくりが医療費の削減になるためポイント制の導入
- ◇ 長寿の和食の推進(味噌・醤油など)

ポイント制

食事

- ◇ 体を動かすことを目的とする(基礎的運動)
- ◇ スポーツに入る前の身体づくり(応用的運動)
- ◇ スポーツに応じた筋力を伸ばす(発展的運動1)
- ◇ ケガに対する身体づくり(発展的運動2)
- ◇ 小学校等施設の利用しやすい取組
- ◇ 自治会と連携してのスポーツ振興

運動の進め方

庁内会との連携

- ◇ 身近な公園などでのラジオ体操
- ◇ ガン検診の利点の周知
- ◇ 運動をしなくても頭脳的な実行で元気な人がいる。(碁や将棋など)
- ◇ スポーツや健康の相談窓口 (メール、電話も含む) をもっと多く

その他

B班発表テーマ

どうしたらもっと健康づくりが進んだ町になるか

(B班) B班では、前回の議論で出てきた課題に対してそれぞれの意見を持ち寄って、議論を行った。「行政と市民が一緒に行えること」に対して多くの意見が出たが、その中でも行政が行えることとして、健康に関する個人の自覚を待っていても実行に移すのに時間がかかってしまうので、行政や商工会等にポイント制度を構築してもらい、健康活動と連携してもらうことで健康づくりを促進できるのではないかと。

また、健康と食のつながりが強いので、行政の力を借りて和食の推進などの健康づくりはどうかとの提案があった。

次に、「市民が行えること」として、スポーツに参加できない人にどのように参加してもらうかの課題については、人には個人毎に差があるため、その人の体調・健康状態にあったスポーツを選ぶ重要性を認識すること。運動をしていなくても頭を使うことで健康な人がいるので、スポーツを行う以外の健康手段もあるのではないかと考えるなどの提案があった。

その他として、医療的な健康相談に加えてスポーツ選びまで含めたアドバイスができるような、相談窓口があればよいと提案があった。

〈質疑応答〉

(A班) 前回の発表は突き詰めた視点での発表が興味深かった。その中で課題に挙げられていた「スポーツは本当に健康に良いのか」についての議論はあったのか。

(B班) 「スポーツは本当に健康に良いのか」についての議論は深められなかった。しかし、スポーツを行う人だけが健康ということではないと考え、例えばスポーツを行ってなくても頭を使って健康な人もいるのではないかと意見があった。また、スポーツをやりたい人、やりたくない人、やりたくてもできない人もいる。無理してスポーツを行わなくても別の手段で健康的であるなら、それで良いのではないかとという結論であった。

A班 カードに記入された主な意見

【行政】

- ◇ 支所別に運動ができるスペースを確保する
- ◇ 高齢者、弱者向けのスポーツが考案されている。
- ◇ 室外スポーツは全国大会への流れが主流になっている。
- ◇ 若い人向け、年寄り向け
- ◇ 習慣作りを班ごとなど、小さな区域で行う。
- ◇ 活動拠点のアナウンスを回覧する (班ごと)
- ◇ アナウンス資料を駅、支所等に掲示する

開催場所の分散化

情報発信ツールの徹底

【市民】

- ◇ 知り合いと体について話すことで、コミュニケーションができ、かつ、気付きがある
- ◇ 他の人に伝える。
- ◇ 自治会、まち協などで活躍する住民の意識改革をし、面で広がる仕組み作り
- ◇ 班で施設利用体験ツアーを実施する。
- ◇ 仲間をつくり、集って活動する (車両等)

【一般＝市民と行政が一緒に取り組もう！】

- ・スポーツが苦手な人を導く手法
- ・行政がスポーツを進める理由
- ・施設を利用して定期的に血圧測定と改善アドバイス会を開く
- ・ラジオ体操を各所でやり、参加する
- ・大学と連携して生徒を確保
- ・メンバーに学生を入れるとよい
- ・健康問題はまず自身の姿勢が大切、他への依存は補助的なもの
- ・佐倉市の特性、水、緑の活用を考える
- ・コミュニティと連携

意識改革

A班発表テーマ **健康づくり広め隊**

(A班) 前回の議論での重要なポイントとして、「スポーツ開催場所の分散化」、「情報発信ツールの徹底化」が挙げられた。スポーツ事業と健康づくりの関係性でみると、開催規模は小さくなくても良いのではないかと意見があった。

「開催場所の分散化」としては、屋外に限らず室内での開催や、例えば規模は小さくても高齢者向けの健康増進器具を置いてもらうなど、開催できる場所をもっと多くして日々の運動につなげてもらう方が健康につながるのではないかと提案であった。

また、ラジオ体操の場の活用、佐倉独自の体操を創作するなど良いのではないかと、大学との連携など、学生を巻き込んで一緒に活動をし、スポーツ指導を受けることも良いのではないかと提案もあった。

「情報発信ツールの徹底化」については、鉄道駅などのアナウンス効果が高い場所を確保して、情報を発信したらどうかと意見があった。情報発信の改善策として、開催されている行事等の情報が市民に届いておらず、参加しづらいとの意見があったので、スマートフォンへの情報提供に加えて、自治会やまちづくり協議会を活用して情報発信したらどうか。

行政と市民が協働してできる部分として、健康に関しては意識改革が重要であるが、なかなか大変なのではと感じた。健康に関する有用な情報発信を徹底的に行うことで、健康意識を高めて自主的な健康づくり活動にも発展するのではないかと。また定期的な血圧測定や健康相談なども、情報があれば参加する人も増えてくると考えている。佐倉の豊富な緑や水などの自然や文化を活かして健康づくりを進めていけばよいのではないかと。

行政への提案として具体的な取組案を発表しているので、ぜひ意見を取り入れて実現してほしい。

(事務局) 各班の発表が終了したので、地域コミュニティの担当課からの一言をお願いしたい。

(自治人権推進課担当) 主にC班とD班により地域コミュニティ活性化のための策を検討いただいた。主なご意見の内容として、佐倉市市民公益活動サポートセンターの更なる活用、市内のまちづくり協議会や様々な団体活動の周知、各団体間の連携の充実、異世代の交流の場づくり、縦割りでない市と地域の連携、コミュニティバス・移動販売車の必要性、市民カレッジ生や卒業生の地域参加を促す施策、公園の活用、道の駅の必要性などについて意見をいただいた。また、発表の中でこれらの施策には財源が必要になるが、市民全体が健康になることでそのような財源を捻出できるのではないかと意見もいただいた。

担当課としても、普段の業務の中で課題として意識していることであるものの、このような場で意見をいただくことにより、今後の課題をさらに明確化できたと考えている。このような直接対話できる場を貴重な機会と捉えており、今後、行政として、重点的に何を行っていくかを検討しながら進めていきたい。

(健康増進課担当) 主にA班とB班により健康をテーマに議論いただいたが、普段、市で行っている健康事業について、市民一人一人まで周知がされていないことを痛感した。そのような課題をいただけたので、課題に向けて組織内で議論したいと考えている。

市では、一人一人により健康になってもらいたく、個人の健康を考えて健康教室等を開催しているが、本日、健康教室参加者の中でつながりができると、地域としてもプラスになるとの意見もいただいたので、そのような視点からも事業を考えていくアイデアをいただけた。

また、健康に意識がある方は健康事業に参加いただけるが、健康に意識がない方に対して健康づくりの事業にどうしたら参加いただけるか、日々の業務でも悩んでいたが、B班の意見より健康ポイント制度を活用した取組での意見があったように、健康担当課内でも同様の意見も上がっているため、健康事業の企画部門との議論にも活用させていただきたい。

(生涯スポーツ課担当) 本日は貴重な意見をたくさんいただき感謝する。B班から提示されたスポーツは本当に健康になれるかの疑問について即答はできないが、メリットやデメリットについて明確に説明できるよう担当課として突き詰めていきたい。高齢者や障害者にスポーツの実施はハードルが高いとの意見もあったが、スポーツを行うことだけが健康になれる手段とは考えておらず、先日、市で開催された長嶋茂雄少年野球教室にも、車椅子で見学に来られて楽しまれていた方がいたように、スポーツには身体を動かすだけでなく様々な関わり方があるのではないかと考えている。

(事務局) 続いて、行政評価懇話会委員から一言をお願いしたい。

(吉村委員) 本日、出席された市の各担当課職員に関しては、休日でも事業や業務があり大変な部分もあると思われるが、日ごろ一所懸命に事業を行い周知に努めても、市民からすると伝わりにくいことがあるということが経験できたのではないだろうか。本日は、普段は接することが少ない、いろいろな年齢層の方の意見を確認できる場となり、大変参考になる意見をいただけた。行政と市民の交流ができたということで貴重な場であったと考えている。

(坂口委員) 佐倉市には歴史よりも文武両道の風土があると考えている。先日のリオのオリンピックでも代表選手が2人選出されており、長嶋氏、有森氏、高橋氏などのスポーツ著名人も多く排出された地域である。スポーツを楽しむ風土・環境は既に整っていると考えているため、これを活かして身近なラジオ体操や身近な公園での運動を促進し、地域コミュニティづくりを広げることにつなげてほしい。

(小野委員) B班発表のスポーツと健康について、スポーツを行うと本当に健康になれるかは、答えが出せなかった難しいテーマであった。また、議論を進めていく中で、健康を前提でのスポーツとして捉えている一面があるのではないかとということも見えてきた。健康は日々歩くことなど、日常生活の中で各自の自覚に基づいて行われていることが大切と考えるが、果たして全ての人が同じように意識できるのか、それが難しいと感じた。現在、スポーツに関わっていない方達へは、魅力ある事業であれば、車椅子で参加をしたり、頭を使ったりといった活動などでも健康的になれるのではないかと考えている。

A班発表では、スポーツ大会の分散化など意見があったが、市で主催している大きなスポーツ行事だけでなく、地域で行っているふるさとまつりやグラウンドゴルフ大会などの小規模行事もあり、身近に楽しめる行事もある。広報紙での扱いが小さいこともあるが、こうほう佐倉を良く確認するとそのような行事も見つかるので、ぜひ確認して欲しい。

(目等委員) さきほどのスポーツを行うと本当に健康に結びつくのかの質問に関しては、B班のワークショップの中では、スポーツをすることで怪我や病気になる人もいるので、まずは個人にあったスポーツを選ぶことが重要という意見が出ていた。

また、人は個々によって体調も異なるため体調や筋力に見合うスポーツを選べるような相談窓口があっても良いのではとの意見もあった。健康における話し合いの中で、医療についての意見が少なかったのは、佐倉市にある医療機関などが充実しているからこそと考えている。B班の設定した「どうしたらもっと佐倉市は健康で楽しく暮らせる町になるか」というテーマに対しては、体力だけをもつてのスポーツや健康ではなく、心も含め健康には様々な要素があり、個々にあったバランスをとることが健康につながるのではないかとというのがB班の議論の結論であったと理解している。

(林委員) 前回は課題の抽出を行い、今回は解決手段を考えていただいた。みなさまからいただいた意見は、みなさまの生活に直結する、行政が解決しなければならないものとして示唆をいただいた。発表時の意見にもあったが、市民の意見や行政評価懇話会の意見はどのように活かされ、どこまで届いているのか、実際に施策にまで反映されるのが行政には問われていると考えている。

現状としては実感できていないため、がっかりすることも多いが、あきらめずに言い続けることが、市民や懇話会委員としての役割ではないかと考えている。

(宇田川委員) 本日、皆さんからいただいた意見は、意見書に反映させて市の施策にも反映させていきたい。行政情報の発信に関しては、市民から要望があり既に市が手がけているような事業があっても市民には届いていない、もしくは正確に届いていないことがある。市民にまで正確な情報が届いていないという課題点を感じたため、その点は行政評価懇話会で言い続けていきたい。

D班で議論した中で、効果と財源について、運転免許の返納に対しての特典として、コミュニティバスの割引利用などの発表があったが、コミュニティバスの運行を維持するためには財源も必要である。例えば運賃が上がっても、それ以上に利便性が上がっていれば、了解を得られることもあるというような一例もある。市が行う事業の効果と財源については、市民が納得できる利便性の向上があれば相応の負担も了解いただくことができるという視点も行政には伝えていきたい。

(事務局) 全体を通して本日の感想など委員長に総評をお願いしたい。

(委員長) 総評の前に一言、会場にあった市発行の市民向け資料を手元に持ってきたが保存版と書かれている。果たして、本日の参加者の中でこの資料をどれだけの人が保存しているだろうか。保存してもらいたいなら、そうしてもらえるような仕組みを工夫して届けるべきではないか。

仮に、年に1回の保存版だとして、どれだけの人が保存しているのだろうか。例えば保存版でも年に1回発行して終わりではなく、2ヶ月に1度は発行する、出張所などの市民の目に触れやすい場所へ配架するなどの手段もあるのではないか。

この事例のように、行政側は情報を提供していると考えているため、市民に情報が届いていないということが行政に伝わっていない。これは双方向性の情報交流が欠落している部分があるのではないか。情報の相互交流という課題であるが、本日の会が契機となり、行政側は情報が伝わっていないということ、市民側はどうやったらもっと情報を受取りやすいかを考えることで、お互いの現状を見直すことにつながればと考えている。

また、このような会を開催することで、参加者が市の情報に触れる機会が増えたり、市としても情報発信のあり方について考える機会となったりするため、このような双方向の輪が広がれば良いと考えている

(事務局) 最後に企画政策課長より挨拶申し上げる。

(企画政策課課長) 本日も長時間に渡り参加いただきお礼申し上げます。みなさまの声を行政施策に反映できていないなど耳の痛い意見も頂戴した。いただいた課題を一つ一つ丁寧に分析し、できることを活かしていきたい。このようなワークショップ開催での行政評価は初めてであったが、様々な貴重な意見を直接お伺いでき、懇話会意見書要素にも盛り込まれるのではないかと考えている。本日集ま

っている関係課を含めて、意見書作成を待たずに、できることは事業に落とし込んでいきたいと考えている。

(事務局) 最後に事務局から事務連絡を行いたい。

本日の発表の記録などを12月中に送付したい。また今回のワークショップを踏まえて、まとめていく懇話会の意見書についても、3月頃となる予定ではあるが、皆様に郵送差し上げる。お忙しい中、長時間にわたる協力を厚く感謝申し上げます。

(12時15分 終了)